

GAP (農業生産工程管理) を活用して  
安全・安心で持続的な農業を!!

# 兵庫県内のGAP実践事例集



整理整頓はGAPのリスク管理の基本!



出荷容器を地面に直接置かないのは衛生管理の大原則!



手洗い設備の基本

平成30年度ひょうごのGAP拡大推進加速化事業

GAP(農業生産工程管理)は、農作業安全、安全な農産物の生産・出荷、環境への配慮、労務管理等において、良い農業の実践を通して、持続的な農業活動を続けるための取組です。

GAPの実践は、消費者へ安全・安心な農産物を安定して出荷するためにもたいへん重要です。

当事例集では、県内でGAP認証を取得している8事例について紹介します。

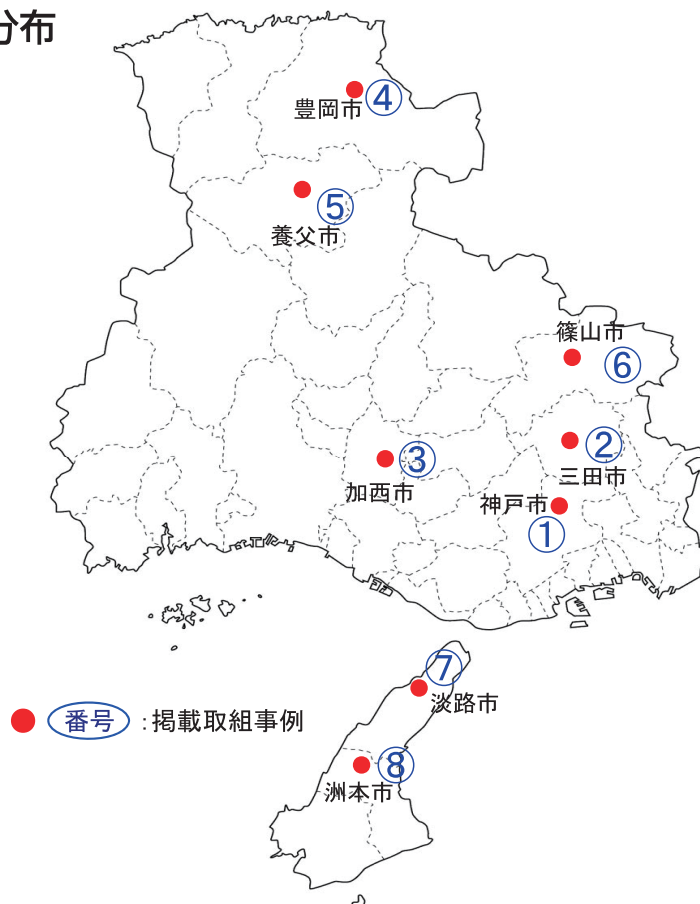
## 目次

### 1 事例集

①ゆめファーム兵庫六甲(神戸市)	P 1
②JFEライフ株式会社(三田市)	P 2
③ひょうご酒米処合同会社(加西市)	P 3
④たじま農業協同組合(豊岡市)	P 4
⑤株式会社クボタeファームやぶ(養父市)	P 5
⑥農事組合法人 丹波たぶち農場(篠山市)	P 6
⑦株式会社パソナ農援隊(淡路市)	P 7
⑧有限会社 新家青果(洲本市)	P 8
2 GAPの意義・目的	P 9
3 GAP認証の種類	P10

## 1 事例集

### 事例集掲載農場の分布







## ゆめファーム兵庫六甲 (JA兵庫六甲) (神戸市)

認証種類

ASIAGAP

認証取得時期

平成30年8月

認証品目

いちご、トマト

### 地域のモデル施設として、GAPの取組を 多くの農家に知ってもらいたい！

○GAPに取り組んだきっかけは？  
 ルールの統一化による作業の効率化と食品衛生レベルの向上を図るため。

○GAP認証を取得した理由は？

①農場として進めたい方向であること。

②農協として国際的視野をもって、農業経営を行う組合員への先導を行うため。

○GAP認証を取得して改善されたことは？

作業者が自主的に、食品安全、労働安全、労働環境等のリスクの洗い出しや解決策を考えるようになった。

○GAP認証に取り組んで苦労したことは？

ルール等の書面化。書類を整備するのに多くの時間を要した。



○GAP認証後、取引先や消費者からの評価が高まったか？  
 認証取得後、期間が短いので現段階で大きな反応はない。

○GAP認証後、経営状況はよくなったか？

管理者だけでなく、作業者在庫管理や整理整頓の意識が込み、施設内が清潔になった。

○GAP認証の活用による今後の展望は？

今後、取引先からの要望も強くなることが想定されるなかで、地域モデル施設として、組合員に周知していきたい。

○今後、GAPやGAP認証に取り組まれる方へのメッセージ  
 管理者や役員だけで進めるのではなく、携わる方全員で考えることでスムーズに取り組むことができます。



農薬は鍵のかかる保管庫に表示して保管



# JFEライフ株式会社 (三田市)

認証種類

GLOBALG.A.P.

認証取得時期

平成29年7月

認証品目

リーフレタス

**GAPを通じて食品安全、労働安全、労働環境リスク等の洗い出しと解決策の検討を経営者、従業員全員で行っています！**

○GAPに取り組んだきっかけは？

農産物生産を行う工程管理のレベルアップを行うために始めました。

○GAP認証を取得した理由は？

外部機関による認証で、かつ国際認証であるGLOBALGAPを取得することで、生産工程管理をしっかりと行っていることをPRするためです。

○GAP認証を取得して改善されたことは？

食品安全・労働安全・労働環境等のリスクの洗い出しと解決策について、経営者・従業員ともに理解が深まりました。

○GAP認証に取り組んで苦労したことは？

認証取得前と比べて、管理の項目が多数あるので、工夫が必要になります。

また、認証の取得、更新にかかる費用の負担が大きいです。

○GAP認証後、経営状況はよくなったか？

取引先からの評価が高まりました。

○GAP認証後、取引先や消費者からの評価が高まったか？

食品に対する信頼度が高まりました。

○GAP認証の活用による今後の展望は？

オリンピック・パラリンピック東京大会の食材使用を目指したいと思います。

○今後、GAPやGAP認証に取り組まれる方へのメッセージ  
まずはできるところから始めてみてください。







# ひょうご酒米処合同会社 (加西市)

認証種類

ASIAGAP

認証取得時期

平成30年2月

認証品目

米(山田錦)

## 事業として農業を行うために

## GAPは必要！ 将来、必ず役立つ！

○GAPに取り組んだきっかけは？

事業として農業を行うに際し、家庭菜園農家と差別化していく一つの方法であると考えたため。

○GAP認証を取得した理由は？

取引先からGAP認証取得の支援のあることを知ったことがきっかけ。

○GAP認証を取得して改善されたことは？

リスクを洗い出すことにより、現場の状況がよく見えるようになった。



○GAP認証に取り組んで苦労したことは？

GAPの趣旨を理解し、実行すること。

○GAP認証後、取引先や消費者からの評価が高まったか？

消費者や取引先がGAPについて理解がないので、今のところほとんどない。

○GAP認証後、経営状況はよくなったか？

経営状況は取得前と変わらな  
い。事務負担が増えたように思う。ただし、従業員から働く環境はよくなったと言われている。

○GAP認証の活用による今後の展望は？

長い目で見ると、GAP認証農産物は差別化され、消費者や実需者から高く評価されてくると思うので、必ず役立つ！

○今後、GAPやGAP認証に取り組まれる方へのメッセージ

事業としてGAPに取り組むのであれば、難しいことではないと思う。ぜひ前向きに取り組んで欲しい。



倉庫内に鳥等が侵入しないようにカーテンを設置



# たじま農業協同組合 (豊岡市)

認証種類

GLOBALG.A.P.

認証取得時期

平成30年2月

認証品目

米(コウノトリ育むお米)



## 「グループ認証」のGAP認証と有機JASにより、 産地で高付加価値化と販路拡大に取り組み！

○GAPに取り組んだきっかけ、GAP認証を取得した理由は？

年々コウノトリ育むお米の栽培面積が増加する中で、販売先を確保していくため、オリンピック・パラリンピック東京大会へ食材提供し、PRしたいと考えたから。

○GAP認証を取得して改善されたことは？

GAPに取り組む組合員農家の経営改善につながった(安全管理・記録の徹底、経営管理の効率化)。

○GAP認証取り組んで苦労したことは？

記録に共通様式を用いず、各組合員農家が記録のやり方を改善する方式を取ったので、組合員やTAC(担い手担当)は苦労した。しかし、後に有機JAS認証を取得する際に役だった。

○GAP認証後、経営状況はよくなったか？

①記録が残るようになり仕事が見える化できたことから仕事の進み具合が共有できるよう

になった。

②無駄な資材発注がなくなった。作業効率がよくなった。

○GAP認証後、取引先や消費者からの評価が高まったか？

GAPは最低限の取組であり、有機JAS等、他の取組と組み合わせることで付加価値が付いて評価が高まると考えている。GAP認証取得の準備で書類等を整理したことでも有機JAS認証がスムーズに進んだ。

○GAP認証の活用による今後の展望は？

今後、取引先からの要望も強くなるのが想定されるなかで、地域で取り組んでいるモデル事例として、組合員や取引先に周知していきたい。

○今後、GAPやGAP認証に取り組まれる方へのメッセージ

GAPによる農業の持続性は、環境だけでなく農業者自身にとっても重要なので、ぜひ取り組んで欲しい。

但馬地域の方には農協も応援するので頑張らしましょう。





# 株式会社クボタeファームやぶ (養父市)

認証種類

ASIAGAP

認証取得時期

平成30年8月

認証品目

トマト



**農場全体でルールを決め、取り組むことで仕事がしやすくなった。  
安全・安心な農産物を消費者や地域社会に届けたい！**

○GAPに取り組んだきっかけは？  
農場運営を安全かつ円滑に進めるため。

- 具体的には、
- ・食品事故の防止
- ・周辺環境への配慮
- ・安全で健康的な働きやすい職場の形成 等

○GAP認証を取得した理由は？  
「食品事故の防止」、「周辺環境への配慮」、「安全で健康的な働きやすい職場の形成」等について第三者機関が客観的に評価してくれるため。

○GAP認証を取得して改善されたことは？

GAPの認証取得にあたり、従業員全員が検討会に参加し、自分たちでルールを決めることにより、全員が農場運営に関わっている意識を形成し、積極的に仕事に取り組むようになった。

また、自分たちの決めたルールに基づき仕事を進めるので、仕事がしやすくなった。

○GAP認証に取り組んで苦労したことは？

- ・マニュアルづくり
- ・HACCPをベースとする工程管理の理解
- ・認証維持に向けたモチベーションの向上（認証取得だけで満足しないように）

○GAP認証後、取引先や消費者からの評価が高まったか？

今のところは特にならないが、今後GAP認証農場であるPRを行いたい。

○GAP認証後、経営状況はよくなったか？

認証取得後間もないので、経営状況への影響は不明であるが、農場内の整理整頓が行き届いており、従業員の意識も高まり、活気を感じる事ができる。



○GAP認証の活用による今後の展望は？

GAPの運用にあたり、従業員全員で決めたルールで農場運営を行うことで、無農薬や有機栽培と違う切り口で安全・安心を消費者、地域社会、そして従業員へ届けたい。

○今後、GAPやGAP認証に取り組まれる方へのメッセージ  
GAPに取り組むことで、従業員のコミュニケーションも図れ、運営に役立つと思います。





# 農事組合法人 丹波たぶち農場 (篠山市)

認証種類

GLOBALG.A.P

認証取得時期

平成30年2月

認証品目

黒大豆

## GAP認証の取組を通じて、農場の意識を一つにできた！資材等の無駄がなくなった！

○GAPに取り組んだきっかけは？

①経営の様々な面において、GAPを用いてリスク管理を行いたかったため。

②農場や集出荷施設の作業環境の改善をしたかったため。

○GAP認証を取得した理由は？

スタッフが増え、農場の運営に組織的なガバナンスを持たせたりしていくなかで、製造業のよいところを取り入れたいといった、農場としての進めたい方向と考え方が合っており、かつ第三者機関から客観的に見てもらえることにメリットを感じたため。

○GAP認証を取得して改善されたことは？

①認証取得にあたり、従業員全員でリスク管理について検討を行うことで、経営者との考え方のすり合わせの機会につながっている。

②農薬や肥料等の資材の在庫管理や発注方法について改善ができ、無駄がなくなった。

③リスクを管理していくこと

で、経営者は従業員に対し、安心して仕事を任せられるようになってきた。

○GAP認証に取り組んで苦労したことは？

①役員や従業員に、まずリスク管理の考え方を理解してもらうことに苦労した。

②頻繁に全員で話し合う時間を作る体制づくりに苦労した。

○GAP認証後、取引先や消費者からの評価が高まったか？

認証取得後、期間が短いので今のところは見られない。

○GAP認証後、経営状況はよくなったか？

①資材等の無駄が減った。

②記録の大切さが分かり、意味を考えるようになってきた。

○GAP認証の活用による今後の展望は？

経営を行っていく上で、経営者、従業員にとっての教科書として活用できる。

○今後、GAPやGAP認証に取り組まれる方へのメッセージ

農業を企業として考えている方や、今まで経営をしたことのない方は、自社の運営で何が問題なのか分からなくなることがあると思います。そんな時はあまり難しいことを考えず、取りあえずGAPに取り組んでみたら解決できたり、解決する方法が分かると思います。



社内ミーティングでの話し合いの様子



農薬は鍵のかかる保管庫内に整理整頓して保管





# 株式会社パソナ農援隊 (淡路市)

認証種類

JGAP

認証取得時期

平成28年8月

認証品目

たまねぎ、こまつな、  
スイートコーン、ブロッコリー

**GAPを活用し、計画段階から、作業の効率化や省力化を検討し、実施することで農場の経営向上を図っています！**

○GAPに取り組んだきっかけは？

GAPでリスク管理を徹底し、より安心安全な農産物の生産を行うため。

○GAP認証を取得した理由は？

①農場の強みとするため。  
②従業員の意識向上のため。  
③GAP認証に対する、社会的な必要性があると感じたため。

○GAP認証を取得して改善されたことは？

①農場のルールや役割を明確に決めることにより、責任所在がはっきりした。  
②農産物を食品として捉えることが、当たり前になった。

③労働安全や労働環境の整備を進めることにより、働きやすい職場への改善につながった。

○GAP認証に取り組んで苦労したことは？

日々の作業記録や肥料農薬の記帳を行うことに苦労しており、IT化等による業務軽減を検討している。

○GAP認証後、取引先や消費者からの評価が高まったか？

①GAP農産物に関心のある、株式会社関西スーパーマーケットなど新規取引が複数始まった。

②相場より高値販売を実施している。まだまだ改善の余地はあるが好調。

○GAP認証後、経営状況はよくなったか？

①収支改善が毎年できている。  
②栽培計画から、作業の効率化や省力化を検討し、実施している。また、サイクルの構築を行うことでさらなる農場の経営向上につながっていくと確信している。

○GAP認証の活用による今後の展望は？

農産物を食品として扱う意識の向上とリスク検討により、食品衛生強化に繋がっていく。

○今後、GAPやGAP認証に取り組まれる方へのメッセージ

今後GAP農産物が標準化していくと考えられるので、少しでも早くから取り組み、認証取得を目指して兵庫県下でのGAP農産物を増やしていきたいでしょう。



道具類は整理整頓し、分かりやすいように表示





# 有限会社 新家青果 (洲本市)

認証種類

GLOBALG.A.P

認証取得時期

平成 22 年 6 月

認証品目

たまねぎ

## 長年GAP認証に取り組み、販路が拡大し、経営改善につながっています！

○GAPに取り組んだきっかけは？

①有機栽培を取り組んでいた中でもより安全な農産物を栽培したかったため。

②社内ルール、整理整頓やトレイサビリティシステムを強化したかったため。

○GAP認証を取得した理由は？

①淡路島たまねぎの作付面積が昭和40年頃から30年で半減し、輸入の多い中国産でGLOBALGAPが普及すれば、さらに国産が厳しくなると危機感を覚えたため。また、若い生産者に工程管理を教える必要があると考えたため。

②国内の人口減と高齢化により国内消費量の減少が見える中で輸出を考えたため。

○GAP認証を取得して改善されたことは？

①役員・従業員が一丸となり取り組みむことで、従業員の意識が変わり、会社全体のブランド力が上り評価される様になった。

②有機栽培の管理では網羅されて

いなかった部分が強化された。

③社内ルール、整理整頓やトレイサビリティシステムの強化。

○GAP認証に取り組んで苦労したことは？

①初めて検査項目一覧表を見た時にどのレベルで要求されているのか全く分からなかった。

②初回の審査で、検査費用、修繕費、人件費等に費用がかかった。今ではそれほど負担になっていない。

○GAP認証後、取引先や消費者からの評価が高まったか？

GAPの管理商品というより、会社全体のシステムが評価され、大手2社へ、GAP認証以外の農産物も出荷するようになった。

○GAP認証後、経営状況はよくなったか？

取得後8年が経ち、販路も拡大し、売上は当時の2・3倍となり、経営状況は良くなった。

○GAP認証の活用による今後の展望は？

まずはオリンピックの選手村

に提供したい。また、輸出や国内のインバウンド向けに販路拡大したい。

さらに、GLOBALGAPの管理基準でたまねぎ以外の慣行農産物も管理し有機・慣行共に冷凍加工して販路拡大を狙いたい。

○今後、GAPやGAP認証に取り組まれる方へのメッセージ

①どの管理項目も前向き姿勢で臨めば必ず取得できる。

②コンサルタントが重要。

③認証取得は1品目にして、他の農産物はそれに準じて管理することで農場全体のブランドを構築する方法もある。

④しっかりとトレイサビリティ管理すれば、もしもの時に自分自身を守る。



GLOBALG.A.P認証ほ場に看板を設置



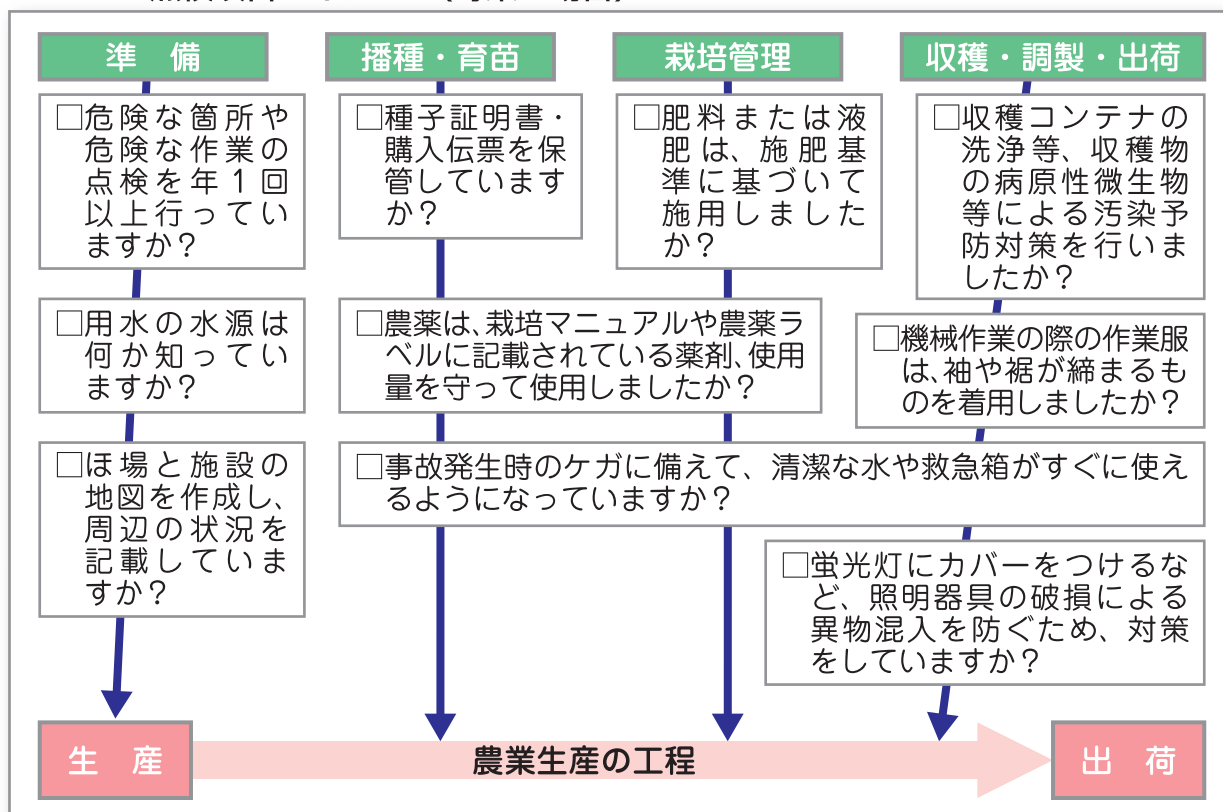
## 2 GAPの意義・目的

農産物の生産において、「食品の安全確保」、「環境保全」、「労働安全」、「人権保護」、「農場経営管理」等を実践することで、持続的な農業生産につながります。

GAPは、栽培の準備段階から収穫・調製・出荷段階まで、記録簿や掲示物によって確認・表示しながら農業活動を改善し、より良い農業経営を実現する取組です。



### ■ GAPの点検項目のイメージ(野菜の場合)



### ■ GAPの取組例

食品安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>照明器具の破損による異物混入を防ぐため、例えば、蛍光灯にカバーをつけるなど、破損時の飛散防止対策をしている。</li> <li>作業場所で飲食をする場合は、飲食後に清掃し、又は必要に応じて殺菌をして農産物の衛生に影響がないようにする。</li> </ul>
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>農産物の洗浄後の廃水は、残さを網などで除去した上で排水する。</li> <li>電気や重油、灯油等のエネルギー使用量を把握し、温室効果ガスである二酸化炭素の発生抑制と省エネルギーに努める。</li> </ul>
労働安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場や道路、施設全体の危険な箇所や危険な作業の点検を年1回以上行う。</li> <li>事故発生時のケガに備えて、清潔な水や救急箱がすぐ使えるようになっている。</li> </ul>
人権保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働者を雇用している場合、休憩時間や作業場の照明の明るさ、有給休暇の取得やメンタルヘルスなどについて、年1回以上話し合いをし、記録する。</li> </ul>
農場経営管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>農場や資材管理、労務管理等の各部門の責任者がわかる組織図をつくり、担当者を明確にする。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>種苗や資材を購入する際には、購入元業者の信頼性の確認を行っている。</li> </ul>

### 3 GAP認証の種類

GAPには、GLOBALG.A.P.、ASIAGAP、JGAPの認証があります。

これらは、GAP取り組んでいることの客観的な証明となり、取引先の求めや、農産物を輸出する場合、農業者の経営判断として、取得するかどうかを決めることとなります。

区 分	GLOBAL G.A.P.	ASIAGAP, JGAP
運営主体	FoodPLUSGmbH(ドイツ)	一般財団法人日本GAP協会
審査会社	<ul style="list-style-type: none"><li>・ テュフズードジャパン(東京都)</li><li>・ インターテック・サーティフィケーション(東京都)</li><li>・ SGSジャパン(神奈川県)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ インターテック・サーティフィケーション(東京都)</li><li>・ 日本能率協会審査登録センター(東京都)</li><li>・ ビューロベリタスジャパン(神奈川県)</li></ul>
審査費用	25～55万円程度+旅費	JGAP:10万円程度+旅費 ASIAGAP:10～15万円+旅費
民間コンサルタント費用	40～55万円程度+旅費	25～30万円程度+旅費

兵庫県では、「GAPの取組」の普及拡大と、輸出や大手実需者との取引を目指す生産者等に対しては「GAPの認証取得」を進めるという、取組と認証取得の2段階で推進しています。

作成

平成31年3月

ひょうごの野菜消費拡大推進協議会  
兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課